

## 平成 28 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

高校教育課

## 1 調査の対象校

- 県立高等学校 83 校（長野西中条校と篠ノ井犀峽校はそれぞれ 1 校としてカウント）
- 県立中学校 2 校

## 2 実施状況のまとめ

## (1) 匿名性を担保した授業評価

( ) 内は H27 年度

		高等学校（実施率 100%）	中学校（実施率 100%）
今年度の実施回数	2 回	83 校（100%）（85 校）	2 校（100%）（2 校）
	1 回	0 校（ 0%）（0 校）	0 校（0%）（0 校）
実施校データ	回収率の平均	92.0%（92.8%）	94.7%（94.7%）
	自由記述欄への記載の割合	約 17.3%（約 19.0%）	約 6.8%（約 9%）
	集計のための人員・時間	平均 5.8 人（4.5 人） 平均 13.7 時間（13.9 時間）	平均 4.5 人（5.5 人） 平均 9.0 時間（10.0 時間）

※原則として 2 回目のデータで集計

## (2) 匿名性を担保した学校評価

( ) 内は H27 年度

		高等学校（実施率 100%）	中学校（実施率 100%）
今年度の実施回数	2 回	15 校（18.3%）（11 校）	0 校（0%）
	1 回	68 校（81.7%）（74 校）	2 校（100%）
実施校データ	回収率の平均	生徒	86.9%（77.6%）
		保護者	65.2%（64.7%）
	集計のための人員・時間	平均 3.2 人（2.2 人） 平均 8.6 時間（10.7 時間）	平均 1.0 人（1.0 人） 平均 12.0 時間（21.0 時間）

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

## 3 評価者へのフィードバック例

## 【授業評価】

- 被評価者（各教科担任）が授業の中で評価者（生徒）に対し授業改善の方法等を説明。
- 学校評議員会や P T A 総会等で集計結果を示し、昨年との比較を説明。
- 授業評価結果のまとめを学校のホームページや学校だよりで公表。

## 【学校評価】

- 学校評議員会、P T A 総会や保護者懇談会等で集計結果を示し、昨年との比較を説明。
- 学校評価結果のまとめを学校のホームページや学校だよりで公表。

#### 4 評価結果の活用例

##### 【授業評価】

- 各職員に評価結果を伝え、その後の授業改善に役立てた。
- 校長による評価支援シートに関わる面接の資料として活用。
- 職員会議で評価結果を共有するとともに授業研究会の資料として活用。

##### 【学校評価】

- 学校課題の把握に活用。
- 学校の運営方針策定の資料として活用。
- 学校の取組への肯定的な意見を職員のモチベーション向上に活用。

#### 5 今後の課題

##### 【授業評価・学校評価共通】

- 処理・集計方法について更なる時間短縮の改善が必要。

## 平成 28 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

特別支援教育課

### 1 調査の対象校

- 県立特別支援学校 18 校

### 2 実施状況のまとめ

- (1) 匿名性を担保した授業評価（準ずる教育課程校 8 校中）（ ）内は H27 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	2 回	3 校	(3 校)
	1 回	5 校	(5 校)
実施校データ	回収率の平均	96.0%	(93.8%)
	自由記述欄への記載の割合	約 31%	(約 17%)
	集計にかかった時間	平均 1.5 人 平均 2.6 時間	(1.8 人) (2.1 時間)

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

- (2) 匿名性を担保した学校評価（県立特別支援学校 18 校中）（ ）内は H27 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	2 回	5 校	(6 校)
	1 回	13 校	(12 校)
実施校データ	回収率の平均	79.3%	(79.8%)
	集計にかかった時間	平均 2.7 人 平均 9.1 時間	(2.5 人) (10.1 時間)

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

### 3 評価者へのフィードバック例

#### 【授業評価】

- 各教科担任が、自由記述欄に記載されていた要望や課題にできるだけ寄り添い、評価者（生徒）に対し、授業改善の方向を説明した。
- 生徒から「分かりやすい」との評価のあった授業のよさについて考察し（板書のよさ、教材の工夫、活動のめりはりなど）、職員会で共通理解を図って授業に取り入れるようにした。
- PTA 懇談会、学校評議員会にて公表するとともに、学校便り、学校のホームページにて評価結果と改善の方向を示した。

#### 【学校評価】

- 評価結果と分析及び改善の方向を学校便り、学校のホームページにて公表するとともに、参観日の保護者懇談会にてプレゼンテーションによって評価結果を発表し、更に質疑応答や要望をいただく機会を設けた。

- キャリア教育について保護者に分かりやすく説明・情報提供することが課題として上げられたため、キャリア教育の視点から子供の目標や育ちについて共通理解しやすくするためのシートを作成し配布した。

#### 4 評価結果の活用例

##### 【授業評価】

- 自由記述にあげられた授業への要望・感想などについて、「授業がもっとよくなる3観点」に照らして考察し、職員会で共通理解を図って授業改善につなげた。
- 評価点の低かった項目については、部会で原因を検討し対策を具体化して指導に生かした。
- 教員と校長の面談時に評価結果を共有し、今後の授業改善や工夫点について確認した。
- 環境面についての意見を受け、改善を図った。(視覚障害特別支援学校で見えにくいと指摘のあった赤色チョークを使用しないこととするなど)

##### 【学校評価】

- 評価結果をもとに職員会議でグループ討議を行い、課題の分析や今後の方向について全職員で考え合う時間を設けた。
- 意見要望をもとに、学校公開週間を設定した。
- 支援会議に係る情報発信の要望を受け、連絡帳の活用、家庭訪問・個別懇談会での情報提供等行うようにした。
- 校務分掌上の各係には、職員会議より前に結果を報告し、年度の反省を扱う係会の際に話題にあげて次年度の計画検討に生かした。
- 保護者や関係機関との連携に関する意見を受け、係で個別の教育支援計画の内容の見直しや作成手順について再検討を行った。

#### 5 今後の課題

##### 【授業評価・学校評価共通】

- 生徒数の少ない学校においては、匿名性を担保する方が難しい。
- 前年度との比較を行うため、評価項目を大幅に変更することは難しいが、学校グランドデザインに合わせて、評価項目、設問の内容等について毎年見直していく必要がある。
- 課題ばかり注目しがちになるので、よい評価について更に伸ばしていく方策にも取り組んでいきたい。

#### 6 参考（回収・集計のための工夫）

- 生徒数が少ない学校では、少しでも匿名性を担保するため、担任ではなく、教頭・教務主任が評価用紙を回収し、生徒が評価しやすいように配慮した。
- 回収用の封筒を配布するとともに、回収の際に学級担任へ提出する以外にも、玄関に鍵付きの投書箱を設置し活用を呼びかけた。
- 集計時により客観的にまとめることができるよう、各部で互いに他の所属の調査用紙を集計するようにした。

## 平成 28 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

義務教育課

### 1 調査の対象校

- 【授業評価】市町村（組合）立中・義務教育学校 186 校
- 【学校評価】市町村（組合）立小・中・義務教育学校 549 校

### 2 実施状況のまとめ

	【授業評価】		【学校評価】	
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
授業評価・学校評価の実施	93.0%	96.8%	100.0%	100.0%
マークシートによる集計	16.1%	17.8%	7.2%	10.0%
①匿名による評価の実施	77.6%	81.1%	90.6%	95.3%
②段階的な評価の実施	99.4%	99.4%	99.8%	100.0%
③自由記述欄の設定	81.6%	82.2%	98.4%	99.1%
*①～③を全て含んだ評価の実施	62.1%	66.1%	85.9%	94.4%
評価結果の公表	87.9%	92.2%	98.0%	100.0%

### 3 評価者へのフィードバック例

#### 【授業評価】

- 評価結果を教科ごとに検討し、改善の方向についてまとめたものを、学校便りや教科通信、ホームページで公開している学校が多い。
- 単年度の結果だけでなく、3年間の経年変化を比較することで、向上している点と課題として取り組んでいく点を情報提供し、学校・生徒・家庭が共通理解している。
- 生徒評価で「基礎力を高めたい」という要望が多く出されたため、朝ドリルを試行した。何回か行った後、さらにアンケートを採り改良を加えながら、日課として定着しつつある。

#### 【学校評価】

- 評価結果を教務会および職員会議で検討し、改善の方向についてまとめたものを学校便りとホームページで公開している。
- 第三者評価者に、集計結果と自由記述欄に書かれた意見を公開し、学校の改善策を含め説明した。出された意見を学校便り等で報告すると共に、次年度のグランドデザインに位置づけた。
- 課題と改善策だけでなく、よさを伝えて伸ばす取組もあった。学年や全校で高い評価となった項目を校長が始業式で伝えることで、学年・学校の特長となって活力を生んでいる。

- 自由記述欄にある要望・相談・意見等をひとつひとつ吟味し、個人が特定されないように配慮しながら、学校としての見解を伝える。
- 「自己肯定感」が低かった結果を受けて、将来の夢にかかわって追究する時間を全学年で実施した学校があり、教員の授業観にも影響を与えている。

#### 4 評価結果の活用例

##### 【授業評価】

- 教員が自分の授業評価を自分で分析することで、授業改善の方向について具体的で実現可能な改善プランの策定につながった。
- 自由記述欄に記述された、保護者からのプラス面の評価をまとめ、職員会議で紹介した。学級担任の意欲向上につながっている。
- アンケートの結果をもとに、すべての教科で「3学期に何を改善するのか」を教科会で検討し、職員会議で発表した。
- 生徒は教員が工夫していることを感じ、「板書が見やすくなってよかった」等、当該教員に返すことがあり、授業改善に取り組む教員の意識向上にもつながっている。

##### 【学校評価】

- 読書量が減少している結果が出てきたことで、PTAが全校に働きかけ、読み聞かせに加えて「ノーメディア・デー」での親子読書の機会を新たに採り入れる動きにつながった。
- 全国学力・学習状況調査の質問紙について分析研修を全職員で行い、分析結果と学校評価とを関連づけて活用するようにしている。
- 経年変化を大切に見ていくようにしている。たとえば、前年度72%だった「挨拶」を、本年度は80%を目標値にするなど、重点プロジェクトを決めだす際の数値目標として利用する。
- 家庭数減少に伴い、地域での活動を見直す意見に対し、資源物回収場所を学校一カ所に変更したり、小中連合PTAに話題を預け、合同で資源物回収を行う検討を始めたりした。

#### 5 今後の課題

##### 【授業評価・学校評価共通】

- 児童・生徒や保護者に、評価の目的や活用方法を丁寧に説明しながら、評価結果を活用している学校等の例を紹介し、実施に向けてはたらきかけていく。
- ウェブアンケートを行っている市町村もあり、自由記述欄を設けるフォーマットの変更等について依頼してまいりたい。
- 公表にあたっては、共通事項にまとめたり、学校の改善プランとして説明したりする等の工夫をしている例を伝え、引き続きはたらきかけていく。